

刊夕 日七十月六



産駒一千頭以上に 石城産馬の増殖算

種牡馬六頭同牝馬二七八頭を 殖せば駒數四四八頭増

石城産馬組合では専屬の三森馬の半數位までに進め一九
按手により現在に於ける八百〇の駒數を上げ得る採算であ
内外の産駒を一千頭以上の生
産に邁進すべく計畫中である
が其れには現在の種牡馬三五
並に同牝馬二四五を牡四一
頭牝二七一頭に増加し種馬
當牝馬を六六・一九として従
來に於ける連年種付百五十乃
至二百頭に止まるものを全化

石城木炭移出商の 先進木炭王國視察

岩手青森各地の生産状況を 廿二日から向ふ一週間

石城郡川前村の木炭移出商組
合員松本豊松、千葉孝之輔、
菊池壽七、安藤和太郎、三部
留信、川津佐々木の六氏は來
る二十二日夜の急行で平澤出
發向ふ一週間の旅程を以て本
邦木炭の先進地である岩手、
青森その他の生産状況を視察
の管であるが商當業の同視察
は濱木炭一般當業からも非常
な期待をもたれてゐる近年に
於ける本縣の木炭は年産一千
萬俵に達し其の景に於て實に
於て永く中央の業界を牛耳つ
て來た岩手、青森の木炭王國
に劣るものではないが移出に
ありては前記二縣を合せる生
産高の八割に對して本縣は未

日刊日曜新聞
日休刊一ヶ月廿五錢
郵税十五錢一部二錢
廣告料一行四十錢
發行所 牛谷政
新報社
新報社
新報社

常識講座

ギャンブル・ランドは合
て本欄で云つたギャン
ブルの集積のことである
悪漢共の社會、無頼漢
の集積、暗黒街、ギヤ
ンブルの横行してゐる町
等々すべてをギャンブル
ランドと呼はれてゐる

豊間大敷網の 大不漁

先月の投網以來
未だ僅に四千圓
石城郡豊間村の大敷網は本縣

田圃荒しの夜づき 本年から罷ならぬ

堀を堰止むる川乾も同じく 違反者は廿圓の罰金

縣では地方の田圃を後に於て
盛んに行はれる石城地方では
俗に夜づきと稱へる「火振り
又は夜振り」の漁は水田の畔
その他を踏み荒し耕作主の迷
惑紛からず又流れを堰止む
る川乾の如き溝堀の堤堰を傾
落なしに切り崩して形しい損
傷を興へる上に灌溉を妨げる
もの甚だしい爲め本年一月漁
業取締規則によつて右の禁止

平公園に不審な男 強窃盗六犯の肩書

平署に留置取調べ中

平町松ヶ岡公園内に昨十六日
正午過ぎ浪々してゐる男の舉
動が不審なため菊地刑事部長
が取調べると同人は石城郡湯
本町の水野谷生れ強窃盗前科
六犯馬山景平(四〇)と稱し去る

氣の毒な日雇業 の妻女を救済

平町の古銀治町三三居住石城
郡好開村の川中子字愛谷五柴
野孝太郎(五三)は日雇業により
其の日の暮しを立ててゐるが妻
きよ(四四)が分娩以來産後の肥
立ちが悪く乳線炎を起して病
床の上の一男三女の家族の中
に手放せぬ幼兒もあるため
嫁ぎが出来なくなり生活にも
窮する中では妻の診療に手の
及ばざるは云ふ迄もなく方面
委員から事情を知らされた平
町が救済をなすことになつた

上三坂校増築

石城郡三坂村では上三坂小
校の狭さを告げ工費二萬圓を
豫算し増築することになつた
が新校舍の一部を二階建とし
舊校舍を二倍するもので農繁
期終了後に着工すると

坑夫の賣溜泥

石城郡内郷村の宮警城炭礦坑
夫鈴木徳男(三三)は去る十四日
未明同郡四倉町の原田雜貨商
前原健七方に忍び入り賣溜泥
七圓餘を窃取逃走目下四倉署
の取調べ中である

四倉市場

高五十一圓八十錢
平均値で八十錢落
四倉市場昨十六日の出荷は
百七十三貫四十三匁で糸魚系
質共に初日のものと大差ない
が取引値は左記の如く前日に
比して平均値で八十錢下つた
尚ほ朝の出來榮えでは上籤餘
期に好天候が続いた去る十五
六日頃の土りものは桑不足

丹野榮三郎氏

平町二丁目一三雜貨卸問屋大
一屋店主丹野榮三郎氏は病氣
療養中であつたが藥石効なく
しなくて置くものと心に誓
つたに相違ない。だから頼朝
が石橋山に旗揚げをしたと聞
いた時どんなに嬉しかつたら
う。其喜びと共に更に彼を大
喜びさせたのは木會義仲の旗
に追つて成就されんとする。
堅い男である。茲に於てか彼
は「死を撰んだ。我が子の双
に倒れながら吾子の出世を喜
んで死ぬる慈父の心持だ。か
ゝる悲愴にして崇高な愛の悲
劇は古今殆んど稀である。彼
は武蔵の永井に任んで居たも

小學校授業參觀

石城郡教育會に於て郡内職
員の相互間に行はれてゐる授
業參觀を昨十六日から明十八
日まで平第三小學校に教員約
百名の授業參觀がある

遭難に見舞金

石城郡江名町漁業組合では去
る十四日總會を開催し本年四
月豊間沖で遭難した長勢丸
の船主佐藤長一氏に金百五十
圓の見舞金をまた此の程カム
チャツカ沖に於て遭難した町
内仲の作發動機漁船清共丸の
船主瀧口寛氏に四百圓の見舞
金を贈ることになつた

遺失の賣溜泥

石城郡内郷村の宮警城炭礦坑
夫鈴木徳男(三三)は去る十四日
未明同郡四倉町の原田雜貨商
前原健七方に忍び入り賣溜泥
七圓餘を窃取逃走目下四倉署
の取調べ中である

昨十六日午後八時遂に不歸の
客となつた同氏は穩健着實を
以て常磐沿線都市中屈指の老
舗であり大商店である業の繁
華を築かれた傍らよく公共の
事業に思念し區内からは大先
輩を以て仰がれ常に人の和に
努め去る大正八年の町議改選
に於て町會議員に當選し町行
政の議に當り少しの私心を加
へざる點に於て町民から知ら

青果市況

平中央青果卸市場(調)

青物	高値	安値
玉葱	三〇〇	二〇〇
へら菜	一〇〇	八〇
京菜	一〇〇	八〇
ほうろく	一〇〇	八〇
夏大根	一〇〇	八〇
サヤ豆	一〇〇	八〇
胡瓜	一〇〇	八〇
牛蒡	一〇〇	八〇
馬鈴薯	一〇〇	八〇
玉葱	一〇〇	八〇
葉葱	一〇〇	八〇
白葱	一〇〇	八〇
茗荷	一〇〇	八〇

父丹野榮三郎儀病氣の處療養不 相叶昨十六日午後八時死去仕候 間此段御通知申上候

追而葬送の儀は六月二十日午後二時自宅出棺
大館青雲院に於て佛式により相替可申候
昭和十一年六月十七日
福島縣平町二丁目
喪主 根本善吉
親戚一同

村燕句集 (四)
満壽莊主人
簡単に云へば實盛の心は源
氏にあるのだが身体は平家に
屬して居る而して彼は義理堅
い男であつた。彼が平治の合
戦に敗れて義朝に從ひ、當時
十三歳の頼朝と共に部落をし
た時今に見る再び源氏の世に

農業

夏菜の病害虫と 其の豫防

(11) 農試本場奥山生
口、被害作物は速かに根部を掘り取り焼却するは勿論栽培に當りては成るべく緑の濃い葉、大豆等の輪作を行ふこと、

6、赤ダニ、本虫は茄子などの葉裏に多数寄生して吸収口を以て養液を吸収するため被害葉は初め細かき黄斑を生じ次へて其の部一面緑色を失ひ遂に乾燥して落葉するに至る、早天打ち続く場合は著しく発生し強雨に出會すれば著しく減少する、年十回乃至二十回の發生にして容易に風によりて傳播する、

防除法

イ、石灰硫黄合剤〇・三一
〇・四度液を強噴霧器にて二、三回一週間おきに散布すること、又は加里硫黄合剤(名田中合剤)二百倍液を散布すること(田中合剤の調合量、水一升に硫黄華及び苛性加里各半封度の割合)本剤の調製法その他は硫黄合剤に類似す、
その他各種各様の病害虫があるのであるが如上の通り是れだけの病害虫をしっかりと防除したならば他は容易に防除出来るものである、尚ほボルドー液に硫酸銅を加用したり或は硫酸ニコチン等を加用すれば病害虫共に防除が出来て努力も節約し得る場合が多いのである。(完)

◆一般印刷物も
御引受致します
新しいわき新聞社
印刷部

ツルヤ
電話一四〇

春雨兼用 絹傘
流行パラソル

流行洋品
夏ノ流行洋品
麦一文字帽
パナマ帽子

涼味豊かな本年度新作品を採り揃へました

正確な体温計
寒暖計(種各)
計量器指定販賣
平町五丁目
山野邊薬局

品名	品目	品目	品目
割目	カッレツ	チキン	カツ
火	ポック	親カツ	井カツ
水	エビ	ハヤシ	ハヤシ
木	メンチ	オム	オム
金	コロッケ	ライス	ライス
土	フライ	ライス	ライス
日	ランチョ	ライス	ライス
	CB	ライス	ライス
	差引	差引	差引

デリーサービス

特にマルトモの
ランチは...
材料のおまかせを願つて居る為め其の節々のおいしい新鮮な物を御進め出来まますので御華客様からいつも御好評を戴いて居ります

RESTAURANT MARUTOMO
堂食モトルマ
平町通
電話一三三

平町南町五丁目 電話三四番
根本産科醫院
手術術完備
入院随時
根本貞次郎
根本貞雄

つぎね
大河内接骨院
大河内寅男
平町橋樑小路四・電話五八八

洋服は
高島屋
注文並に既製品
在庫品
豊富
高島屋洋服店
平町二丁目 電話三八六

日本型セメント瓦製造部増設
福島土木課指定製管所
森下商會
安下商會
平町胡摩
澤五八
電話八九六番

牛も豚も優良品の自慢
肉の御
三二三屋
平町田町
油問屋
關内油店
電話長一六
支店 平町四丁目
支店 平町四丁目

目科療診
一、齒科 一般
保存科、補綴科、歯列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科、レントゲン科
中野齒科醫院
院長 日本齒科 中野 誠
平町田町(松月堂向ひ) 電話五〇九番

諸機械並
一般鑄物
タービン
ポンプ
山田鐵工所
山田親敬
平町七丁目 電話七十二番

和洋鋼鐵、金物問屋
釜屋商店
九九・九電

手職を覺へらるゝ
雜務員募集
一、年令十五、六才
一、初給四十錢内外年二回昇給あり
一、平町及附近居住者にして通勤し得るもの
一、最初工場の雜務に従事し後本人の適業に廻す
右希望者は本人直接工場へ御申込を乞ふ
平町 新田 前
丸はん家具製作所
電話の御照會は御断り致します

平町田町 電話五二三番
高久病院
院長 醫學士 高久 忠